

千葉県林業試験場

寺嶋芳江・富谷健三

yoshie terasima kenzo tomiya



バカマツタケ(上の写真)はマツタケの近縁種の菌根性きのこです。形や香りはマツタケとよく似ていますが、傘の色がやや淡いこと、小振りであること、20日ほど早い時期に発生することなどがマツタケとは異なります。マツタケよりも早い時期にでてしまう愚か者という意味の地方名がそのまま学名とされました(Hongo, 1974)。

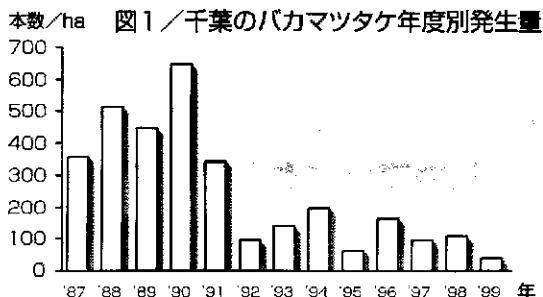
両者の最も大きな違いは、マツタケがマツ科の森林に発生するのに対し、バカマツタケはブナ科の樹木の根と菌根をつくり、コナラ、ミズナラ(小川・小原,1978)、コジイ、アラカシ(島薗ら,1979)、ウバメガシ(城戸,1993)、マテバシイ(寺嶋,1996 a : 1996 b)などに発生することです。ほぼ日本全国で発生が確認されていますが(Iwase,1996)、マツタケよりも発生量は少ないようです。北海道、東北では9月上・中旬、関東では9月中旬から10月上旬、中部から中国では9月下旬から10月上旬、九州では10月上旬に発生します(小川,1978)。日本を中心として中国東北部、パ

ニアニューギニアにも発生し、アメリカ東部にも似たきのこがでるといわれています(大谷,1976:小川,1978)。

千葉県では、南房総のマテバシイ、スタジイ林内、房総丘陵のコナラ林内で発生しています。千葉県でのバカマツタケ採取の歴史と料理法について、館山市神余(かなまり)の青木さんから伺った話を紹介します。1940から1950年頃には、館山市の畠(はた)地域で、シイ林に入り一日に背負いカゴいっぱいのバカマツタケを探ることができました。バカマツタケを好んで食べる習慣が一般的ではなかったため、きのこ好きな人は山に入り、自家消費用に好きなだけ採取することができました。したがって、このきのこを商品として流通させることはなく、地元の市場でも売買されることはありませんでした。南房総の民話、昔話、伝統料理にもバカマツタケの登場するはなしは見あたりません。

ではなぜ、館山市の畠のみでバカマツタケが食されていたのでしょうか。これについては、関西から畠に定住した人が食されることを広めたとの聞き語りの記載があります(盛岡,1999)。館山市畠以外の地域でもバカマツタケは発生し、畠地域から嫁いで婚家での食事作りを担った女性が、裏山で採れるこのきのこをその家に食材として定着させていったそうです。

料理法としてはマツタケの料理とほぼ同様で、生の場合、焼きもの、お吸い物、炊き込みご飯、



焼き松茸の三杯酢などです。焼いたバカマツタケを縦に切り、熱燗のお酒に入れて、香りを楽しむ松茸酒も好まれています。保存方法としては、冷凍よりも乾燥が適します。柄の部分に糸を通し、風通しのよい軒に2、3日つるして乾燥させます。この方法でシイタケを乾燥させるのには7日ほどかかりますが、シイタケよりも速く乾きます。この干しバカマツタケは翌年の夏頃まで保存が効き、乾燥品を水に戻し、お吸い物、炊き込みご飯に利用します。以上が青木さんから聞いた話です。

バカマツタケの人気はマツタケの影響を受けました。マツタケの歴史は室町時代にさかのぼります。しかし、賞味されていたのは近畿から中国にかけての地域で、それ以外では普通のこととして扱われていました。希少価値の上昇とともに、全国的にマツタケの人気が高まったのは1960年代です(佐藤, 1999)。千葉県では、高価な「松茸」が南房総でも採れるというので、1980年頃から、地元をはじめ、都会からも採取目的の入山者が増えました。シイ林を無謀に歩き回ることにより腐植層を堅く

踏みつけ、落ち葉を剥ぐことにより乾燥させ、菌糸体の生息環境を悪化させてしまいました。現在では、房総丘陵のコナラ林も充分に管理されなくなつたため、林は荒れ、富栄養化しています。コナラに依存するバカマツタケもまた消滅しつつあり、千葉県レッドデータブックには保護を要する菌類のひとつとして挙げられました(吹春, 1999)。

千葉県林業試験場では、1986年から館山市の調査林で発生量などを調査してきました。シイ林の樹齢が上がっていることとも相まって、現在では、発生量は徐々に低下してきています(図1)。きのこを保護するための注意点として、余分な堆積物の除去、細根の発達促進、発生し始めのきのこの乾燥防止などが考えられます。林業試験場では、入山規制、林の掃除と更新作業などの管理によりきのこの発生を促す試験を進めています。

千葉県林業試験場では、1986年から館山市の調査林で発生量などを調査してきました。シイ林の樹齢が上がっていることとも相まって、現在では、発生量は徐々に低下してきています(図1)。

参考文献

- 吹春俊光 (1999) 保護上重要な植物種 (5) 菌類. (千葉県環境部自然保護課編、千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—植物編). 千葉県環境部自然保護課、千葉.
- Iwase, Koji (1996) Distribution of the ectomycorrhizal fungus Tricholoma matsutake and the related species and some characteristics of their isolates. Soil Microorganisms. The Second Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries, Japan International Workshop on Genetic Resources, 179-188.
- Hongo, Tsuguo (1974) Notes on Japanese larger fungi (21). 植物研究雑誌49 (10): 294-305.
- 城戸杉生 (1993) ウバメガシ林を主としたバカマツタケの生態. 和歌山県林業センター研究報告4: 1-9.
- 小川 真 (1978) マツタケの生物学. 農地書館, pp. 326.
- 小川 真・小原弘之 (1978) マツタケとその近縁種における“シロ”的微生物生態学的研究ミズナラ、コナラ林のバカマツタケ. 日菌報19: 391-405.
- 大谷吉雄 (1976) 日菌報17: 363-365.
- 盛岡節夫 (1999) 南房総のマテバシイ植栽文化. トウジイの歩いた道. 千葉県農業改良協会, pp. 95-97.
- 佐藤栄邦 (1999) マツタケ大団の馬脚. Asahi Shimbun Weekly AERA 11, 15: 70.
- 島薗平雄・緒方吉箕・安永敏雄・川口秀義 (1979) 宮崎県下の広葉樹林に発生するニセマツタケおよびバカマツタケについて. 日菌報20: 185-194.
- ※1. 寺鷲芳江 (1996a) シイ林における外生菌根菌バカマツタケの生活様式に関する研究. 千葉県林業試験場特別研究報告, 1: 1-76. (要約和文、本文英文)
- ※2. 寺鷲芳江 (1996b) シイ林におけるバカマツタケの生態. きのこの科学3 (3): 1-8. (別刷和文)

林業試験場には上記2つ(※1, ※2)の文献の多少の在庫があります。ご希望の方は、希望の文献番号を明記の上、郵送先の住所・氏名を切って貼るように記入して、下記まで封書でお申し込みください。林業試験場から郵送します。

〒289-1223 千葉県山武町埴谷1887-1 千葉県林業試験場 宮嶋芳江